令和５年度第１回男女共同参画推進会議　議事要旨（令和５年８月29日土岐市文化プラザ）

委員	近藤眞庸 委員、内山眞由美 委員、加藤泰子 委員、本多直也 委員、森裕紀 委員、稲垣妙子 委員、戸松陽子 委員、長瀬洋子 委員
事務局	土本訓子まちづくり推進課長、伊佐治英津子まちづくり推進課人口減少対策係長、川上裕央まちづくり推進課主査
説明員	片田誠教育研究所主任

	【土岐市の男女共同参画のR4年度推進状況・質問票について】
事務局	資料に基づき説明
会長	子どもたちの中で認識が育っているのか評価しづらい部分はあるが、成果はどのように感じているか。
教育研究所	男女分け隔てなく、仲良くしていることを実感している。数値としては令和４年度実施状況報告書の２ページにあるように事業としては行っている状況である。
会長	男女によるジャージの色分け廃止や男女混合名簿など、見えない部分のカリキュラムで調整していることを感じる。引き続きよろしくお願いします。
事務局	資料に基づき説明
会長	土岐市の取組内容が公開されるのであれば活動実績が100%のものも載せておかないと、取り組んでいるか分からなくなってしまう。いつから継続して行っているのかを載せた方が分かりやすいのではないか。「ハラスメント」は広義的であるが、どういうとらえ方をしているのか。
委員	学校教育に関わる男女共同参画としてはかなり進んでいる。今後は人権尊重、外国人、LGBTQ等に目を向けていくのではないかと思っている。男女平等もかなり進んでいるので、どこで線引きしたらいいのか危惧している。
事務局	資料に基づき説明
会長	町内会ハンドブックは誰に配布しているのか。
事務局	町内会長に配布している。毎年作成している。
会長	問題点はどのように挙がってくるのか。担当部署に挙がってくるのか。
事務局	ハンドブック作成の元々の流れは、共助のまちづくり検討会というものがあり、市民の方からの困りごとの一つに町内会活動の不透明さがあった。そのため、ハンドブックを作成し、町内会の活動をオープンにした。また、引継の中で、ハンドブックを活用し、継続して事業をするためのツールでもある。問題について市のどこに問い合わせたらいいのかもQ&Aにしてある。 隣保班長の集まりだと男性の方が仕事で出席できない場合は女性が出席している場合もある。陰でやるのではなく、表で女性がやることが目標である。
	【全体について】
会長	時間外勤務が年間360時間を超える職員数が昨年に比べると増えている。数値を見ると悪くなっている印象がある。どう捉えているのか。
事務局	時間外勤務の削減に取り組んではいるが、目標値は設定していない。各課の業務によってはやむを得ず時間外勤務が発生する場合もある。例えば、突発的に時間

	外が増える要因の一例としては選挙等がある。
会長	事業を実施したので効果はあったと捉えていいのか。
事務局	突発的な業務が発生しなければ、数値に反映されていたと思われる。
会長	乳幼児学級「てくてく」が昨年は開催されていないような表記だが。
事務局	表記の誤りだと思われる。
会長	最終ページだが、基準値を考慮して目標値を掲げていると思うが、実績値が基準値を下回っているものがある。
事務局	回答者が変わってしまうため、ばらつきはあると思う。また、10 年前と比べると基準が上がっていることも要因として考えられる。
会長	アンケートとして意味がなくなってしまうのでアンケートから外してはどうか。もしくは別の聞き方が良いと思う。10 年前と比べると男女共同参画が進んでいるか、というアンケートであれば進んでいる、という回答が増えると思う。 他に何かあるか。各委員から話を聞きたい。
委員	質問票が突然送られてきた。どういった意図があったのか聞きたい。
事務局	事前に資料等に目を通してもらうことで、質問をしやすくする意図であった。
委員	事前に提案がほしかった。前回の方が質問が出ていたように思う。逆に構えてしまった。ただ、このやり方がベストであればこのやり方でも構わないと思う。
事務局	前回も事前に資料に目を通してもらっている。また、事前に質問が分かっておれば担当者から直接話ができるので、分かりやすいと考えている。
委員	災害が起きたときは、女性の目線も必要だと思う。女性防災士の数が少ない。防災士になるのに、約１万円かかるのは高いと思う。市の助成があると女性の受講者が増えるのではないか。
事務局	町内会にも防災士を増やしたい意識はあると思う。町内会によっては負担してもらえる所もある。
委員	中学生や高校生等の若い世代にも防災士になってもらうと良い。
委員	昔の慣習などが却って男女共同参画を阻害しているのではないか。見直しは早いスパンでやった方が良いのではないか思う。
委員	土岐紅陵高校の２年生に対してのみ男女共同参画に関する講演会を行っているので、もう少し門戸を広げた方が良いのではないか。
事務局	若い世代に男女共同参画について知ってほしかった。まずは市内の高校に、ということにした。２年生に対して、ということではなく話を持っていった段階で１，３年生は同じような話をする予定であった。学校のカリキュラム上、２年生に限定となった。
会長	市内の高校全てに話を持っていったのか。
事務局	まちづくり推進課長が土岐紅陵高校の運営協議会の委員になっており、講演会について打診をしたところ承諾いただけたためである。今年度は別の高校で実施することを予定している。
委員	スカートとスラックスを選択できるとあるが、実績値があると分かりやすい。

委員	女子生徒の制服選択制導入が４校だが、全ての学校が対応していないのか。
事務局	実績として４校と聞いている。
委員	ニーズがあれば当然対応する。希望者がいないため４校となっている。
会長	学校で意見は統一されていないのか。
委員	意見は統一されている。ニーズがあれば当然対応する。
会長	それなら、６校で良いのではないか。
事務局	そのように対応する。
委員	男女全く同じようにするというのは難しいように思う。
委員	分母があるものは分母を明記すると分かりやすいのではないか。
	【その他】
事務局	推進会議の委員の任期が令和５年９月１０日までとなっているが第３次プラン策定中につき、任期を令和６年３月３１日までとしたいが良いか。
委員	異論なし
	終了